

記憶の棘

2006(平成18)年7月27日鑑賞(東宝試写室)

★★★★



第2章

DVDでじっくり鑑賞したい

監督・脚本＝ジョナサン・グレイザー／脚本＝ジャン＝クロード・カリエール、マイロ・アディカ／出演＝ニコール・キッドマン／マイケル・デソーテルズ／キャメロン・ブライト／ダニー・ヒューストン／ローレン・バコール／アリソン・エリオット／アリス・ハワード／ピーター・ストーメア／アン・ヘッシュ／テッド・レヴィン／カーラ・セイモア／ノヴラ・ネルソン／ゾー・コールドウェル／マイロ・アディカ (東芝エンタテインメント配給／2004年アメリカ映画／100分)

……死に別れた夫への想いやっと別れを告げ、幸せな再婚に踏み切ったヒロインの前に突然、「僕は彼の生まれかわりだ」と名乗る少年が……。そんな面白いアイデア(?)にもとづくちょっとミステリアスな夫婦愛(?)が次々と展開されていくが、そんな話をあなたは信じる? それとも……? 美しい金髪が売りモノのニコール・キッドマンが大胆なショートヘアで登場し、10歳の名子役との間で謎めいた中にも官能的な演技を披露するが、映画全体の評価は賛否両論に分かれそう。さて、あなたの採点は……?

面白い構想だが、ちょっと設定にムリが……

パンフレットによれば、この映画のテーマは「少年が、ある女性の亡き夫の生まれかわりだと主張する」という面白いものだが、その構想(原案)はこの映画のジョナサン・グレイザー監督が以前からあたためていたものとのこと。そして、その構想に参加したのが、「輪廻」についてかなりの知識を持ち合わせている脚本家のジャン＝クロード・カリエール。さらに、舞台をニューヨークに設定するについて第3の脚本家となったのがマイロ・アディカ。この3人の共同作業の中で、前述の世にも不思議なテーマが陽の目を見ることになり、この『記憶の棘』はニコール・キッドマンに7度目のゴールデングローブ賞最優秀主演女優賞ノミネートをもたらした。しかし、私の印象ではやはりどう考えても、ちょっと設定

にムリが……？

ショートヘアのニコール・キッドマンは……？

この映画のヒロインであるアナをニコール・キッドマンが演ずるについての大きな特徴は、大胆なショートヘアにしたこと。パンフレットには、「美しく華奢なうなじを見せた大胆なショートヘアに変身」と書かれているが、私はどちらかというとなが髪金髪フサフサのニコール・キッドマンの方が好き……。さらにパンフレットによれば、ジョナサン・グレイザー監督は「髪を短くしてもらったのは、アナというキャラクターを、匿名性をもって表現したかったからだ」と語っているが、さて……？

夫の死亡から10年、やっと再婚へ……

映画の冒頭、かなりしつこく(?)雪道をジョギングする男の背中が映されるが、ある地点に到着してひと休みしようとしたところで、彼は突然倒れ込んでしまった……。

それから10年後。夫ショーン(マイケル・デソーテルズ)を失い、未亡人となったアナ(ニコール・キッドマン)だったが、今日は、ジョゼフ(ダニー・ヒューズトン)のプロポーズを受け入れたアナの婚約パーティーの日。大勢の人が集まった豪華なアナのアパートの部屋の中でのジョゼフのスピーチは、「3年間待った。そしてやっと……」という感激の気持をストレートに表現したもので、簡素ながら人の心を打つもの。これにてアナの幸せな再出発が確定したかのように見えたが、ショーンの親友だったクリフォード(ピーター・ストーメア)とその妻クララ(アン・ヘッシュ)は、何となくその場の雰囲気にも馴染めないようだったし、クララの行動には何か秘密めいたものが……。さて、これは一体何を意味するのだろうか……？

10歳の少年の名はショーン……

続いて今日は、アナの母親エレノア(ローレン・バコール)の誕生日パーティーの日。主な出席者は、①アナとジョゼフ、②アナの姉のローラ(アリソン・エ

リオット)とその夫のボブ(アーリス・ハワード)、③家族ぐるみで親しくつき合っているヒル夫人(ゾー・コールドウェル)などだが、この家族団欒の輪の中に突然「アナに会いたい」と言いながら登場してきたのが10歳くらいの少年(キャメロン・ブライト)。なぜかじっとアナの目を見つめながら、彼は突然「2人だけで話したい」と……。そんな少年の態度にあきれながらも、キッチンに導き入れたところ、この少年は「僕の名はショーン、君の夫だ」と信じられない発言を……。

最初は苦笑しながら対応していたアナだったが、あくまで真剣に「僕はショーンの生まれかわりだ」と話す少年を見て、こりゃ一体ナニ、冗談やいたずらにも程があると腹が立ってきたのは当然。最後は部屋からつまみ出すように追い払ったが、アパートのドアマンのジミー(マイロ・アディカ)の話によると、ホントにこの少年の名はショーン。そんなバカな……。

身元は割れたが……

少年の名がショーンであることは事実だったが、この少年はアナと同じアパートの202号室で家庭教師をしている父親のコンテ(テッド・レヴィン)と母親のコンテ夫人(カーラ・セイモア)の息子。この少年から今度は「ジョゼフとは結婚しないでほしい」という手紙がアナの元へ届けられたことを知ったジョゼフが、アナを連れてコンテの元へ抗議に訪れたのは当然。そして、コンテも息子に対して「二度とアナに近づかない」と誓わせようとしたが、この少年は頑固に「それはできない」とくり返すのみ……。そんなやりとりの後の別れ際、ショーン少年が倒れ込む姿を見て、アナは驚いた。それは何と自分のかつての夫ショーンの死の直前の姿とそっくりだったのだ……。一方ではそんなバカなと思いつつ、他方ではひょっとして、という思いが広がってくるのを、アナは否定することができなかつた。そして、そうなればアナとジョゼフとの間に大きな気持の乖離が生まれるのも必然だったが……。

ちょっと不思議な世界をニコール・キッドマンとキャメロン・ブライト少年が熱演!

この映画のポイントは、「僕はショーンの生まれかわりだ」と主張する少年の

言葉を、アナが信じるのか否かという一点に尽きている。イヤ、実はそうともいえず、亡くなったショーンが、親友だったクリフォードの妻クララと密かに不倫関係にあったらしいことが、この映画のミステリー性を深める大きなポイントになるのだが、それは映画を観ながらじっくりと考えてもらいたいテーマなので、これ以上触れないでおこう……。誰がどう考えても「そんなバカな」と思うし、アナも当然最初はそうだったのだが、自分と夫しか知らないはずの数々の事実をストレートに語りかけてくる少年の姿を見て、アナの気持は大きく揺れ動いていた。

そんなアナの微妙な気持をスクリーン上で表現するのが名女優ニコール・キッドマンのお仕事だが、その静かな熱演は実にお見事！ 同時にセリフは少ないものの、じっと見つめる視線に人生の重みや深みそして喜びと悲しみを表現しなければならぬ難しいショーン少年役に挑んだ10歳のキャメロン・ブライト君の演技力も立派なもの！

バスタブでは……？ そしてベッドでは……？

果たして、この少年は亡きショーンの生まれかわりなのか？ この謎をめぐってアナ以外の人々がすべて否定的なのは当然。しかし、今やアナは周りから否定されればされるほど、この少年がショーンの生まれかわりに違いないという確信を持ち始めていた。そんな状況の中でスクリーンに登場する面白い(?)シーンが、バスタブのシーンとベッドのシーン。少年はアナが自分の妻だと信じているのだから、妻が入っているバスタブの中に入って行くのは当然……？ そして、ベッドを共にするのも当然とばかりに……？

キャメロン・ブライト君はそんな難しい役柄を精一杯演じており、ニコール・キッドマンもそれに負けない熱演をしているのだが、やはり私にはどうも不自然さと違和感が……？

アナの決断は……？

映画の中盤の物語は、ショーンの生まれかわりだと主張する少年をアナから引き離そうとするアナの母親やジョゼフたちの姿が描かれているのでそれは省略す

るが、そのような展開になるのは当然。

そしてある日、ジョゼフがこの少年に対する怒りを爆発させたのは、家族や友人が集まった席でのこと。もちろん、それまでのイライラが募ったうえでの怒りの爆発だったのだが、その大人気ない態度(?)にみんなはビックリ。そしてこれによって、ジョゼフに対するみんなの冷たい視線に耐えられなくなったジョゼフは遂に家を出て行くことに……。

そんな中、「ジョゼフに謝りに行きなさい」と諭す母親のアドバイスとは逆に、アナが下した決断は、「あなたが21歳の男になれば、結婚しよう」という周りからみればとんでもないもの。ジョゼフに乱暴されて傷つき、1人今バスタブの中に入っているショーン少年に対して、アナはこの決断を告白したが……。

その後の展開と結末はあなたの目で……

前述したように、この映画に登場するクリフォードの妻クララが物語のミステリー性を深めるキーパーソンになっているので要注目！ この少年がショーンの生まれかわりであると信じるようになったのはもちろんアナ1人だけだし、逆にハナからそれを信じていないのがジョゼフ。しかし、アナと少年の話を聞き、それなりに「その信憑性」について判断しようとした人たちもいた。それがクリフォードであり、その妻のクララたちだ。その「検討」の結果下した結論は……？そして、彼らからそのような結論を突きつけられた少年が、自ら下す決断とは……？ その結果、この映画の結末は……？

それは、あなたの目で直接確認してもらわなければならないだろう。なおパンフレットのラストには、この「判断」を下すについての10項目にわたる「論点」が設定されているので、映画を観た後、これもじっくりとお勉強を……。しかし、そんな個々の論点よりも大切なのはあなたの感性。ちなみに私の結論は、映画の終了と同時に100%固まったが……。

2006(平成18)年7月28日記